

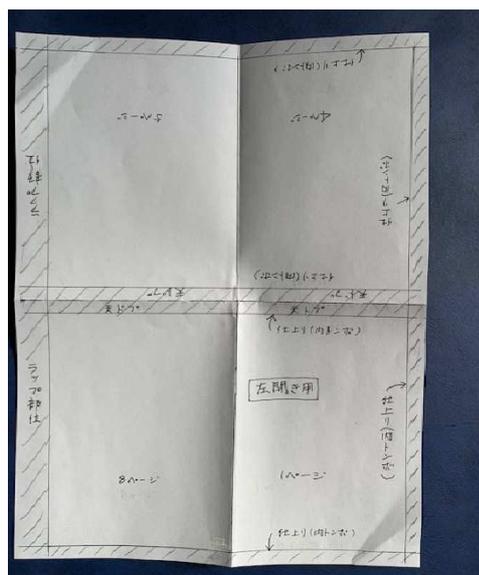
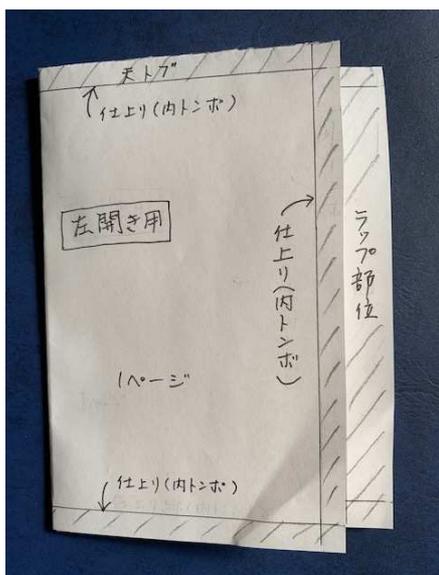
製本のススメ

Vol. 198

梅の便りが届き始めました。不況でもコロナでも春はやってきますね。ただマスク生活が日常になって、人の顔が判らなくなる事ってないでしょうか。特に初対面の方は、顔が覚えられなくて困りますね。声も聞き取りにくく、何度も聞き返すのも憚られます。良い対策もなく弱ったものです。

今回は「**中綴じの面付を覚えよう!②**」のお話です

今回も折から加工する事を基本にお話します。前は4ページ(二つ折)でしたので、今回は8ページ(四つ折)での位置調整です。前の説明でラップの必要性はお判りいただいた事と思いますが、8ページも同様にラップを作ります。(今回は左開きとしています)画像では小口側の仕上がり位置+外トンボ幅と さらにラップ幅が有ります。通常紙折りと呼ばれるような小口の揃った折り方ではなく、若干ずらして折ったようなイメージです。



展開画像では本文の印刷位置が、少し片側へ寄っていることがお判りでしょうか。実際には裁ち落としてしまう部分ですが、中綴じの加工には大変必要な部分です。用紙に十分なゆとりが有れば構いませんが、変形サイズや規格サイズの用紙を使う場合には、心掛けてください。気づかれた方もいらっしゃるでしょうが、これらは中心ページよりも後ろ側(例えば8ページならば5ページ以降)にラップを取っていません。これは製本加工中の擦れや不良を発見しやすく為の工夫です。印刷と製本には様々な約束事があるのです。

弊社 HP は <http://www.isekiseihon.com>

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本